

のうはく通信



第 4 号



ふるさとどうすっか、
みんなで考えなきゃ

**受入民家
随時募集中!!**

興味のある方は、お気軽に
協議会事務局まで
お問い合わせください。

表紙の人(左から)

胎内市 泉 田 昭さん
齊 藤 隆 司さん
文 さん
(インタビュー もりたろう)

泉田さんの 農村生活体験の様子

（株）ふるさと福島を立ち上げ、国の補助金を活用し、桑茶の栽培・加工販売に取り組み始めた泉田さん。桑茶製品は樽ヶ橋の道の駅などで入手できます。また、最近では農家レストラン《Gorashe（ゴラッシュェ）》の経営も行っています。



泉田さんの畑でなすの収穫体験。どんなメニューになるのかな。

齊藤さんの 農村生活体験の様子

多くの野菜を栽培する齊藤さんですが、季節によっては作業がないことも。そんな時はお近くの農家でお手伝いさせてもらうそうです。



ユリの球根を
移し替えました。頑張ったね。

体験活動紹介

● 奥胎内ブナ林探検

奥胎内ヒュッテを出発し、森の案内人の先導でブナ林を散策します。そこにある植物や生態系の話などを案内人がわかりやすく、楽しく解説。森林浴にもうってつけ。

(森の案内人：本間英樹さん)



編集後記

ふるさと体験学習は実施から丸8年が経過し、当初から支えてくださった農家の方々も、その分年齢を重ねました(私も!)。体力的に難しいという方も増えています。今年度からは、胎内市に地域おこし協力隊として、都会から若者が来ます。外からの力も取り込み、地元民も力を発揮して、共に郷土教育を盛り立てていきましょう。 もりたろう

ご意見、お問い合わせはこちらまでお願い致します。

胎内市農林水産課 農村交流係
胎内型ツーリズム推進協議会301人会事務局
☎0254-48-3321 <http://tainai301.seesaa.net/>

事務局よりひとこと
本号は福島から移住された2組の受入民家さんが登場。みなさん、縁もゆかりもない胎内市にすっかり根を下ろし生活されています。どんな状況でも独り立ちできる力を育てることもこの取組の重要な目的のひとつです。その意味で、まさにふるさと体験学習を体現されているこの2組の方々に心強く、頼もしく思います。事務局

ふるさと体験学習に
関わる
《新》胎内市民の声を
お届けします



外孫が帰ってくる感じとおっしゃる
齊藤さんご夫妻

第4回目となる今回は、福島から避難してこられ、胎内市民となり、子どもたちを受け入れている方々を対象にインタビューさせていただきました。ともに受け入れをして3年目になります。胎内市のふるさと体験学習に携わることとなったきっかけや、思いを伺いました。

それぞれのお宅事情を
聞かせてください

齊藤 うちが6人家族です。子どもは孫が2人。高一と中2です(3月現在)。本籍も移し、区長もやりました。孫は農業高校に通っていて、そろそろ飼っている鶏や豚を食べるらしい(笑)。

泉田 7人家族。両親と娘夫婦。娘の旦那は福島へ行ったり来たり。孫は高2と中1。毎日サッカーで忙しく、泊りに来た子どもたちと触れ合う時間はないかな。

子どもたちを受け入れる
こととなったきっかけを
教えてください

齊藤 きっかけは、「交流センターしゃくなげ」ですね。地元の方が民謡流しの踊りを教えに来てくれて、その際、農泊のお誘いを受けました。

泉田 しゃくなげは普通の避難所とは違い特殊だった。日本では他

にこんなところはないのではないか。地元と避難者との垣根がなく、みんなこの人たちという感じになった。そこで娘が受け入れを決めてきた(笑)。

どのような体験を
させていますか

泉田 小学生には馬鈴薯やナスの収穫、時期の遅い学校は大根の種まきをやってもらっている。健康への思いから桑茶を栽培し、加工販売していて、子どもたちには加工作業や事務仕事も体験させている。リーダーシップを発揮して、作業効率を考え工夫するのも出てくる。料理はお稲荷さんと餃子が多いかな。

齊藤 家庭菜園ですが、多くの品種を作っています。一通り説明すると体験時間が終わるぐらい(笑)。また、畑に味噌持っていて、その場でつけて食べさせることもあります。どうしても作業がないときは、ユリを栽培する農家さんをお願いして、手伝わせても

らったこともありました。子どもたちは90分間黙々と作業を続け、集中力があると感じました。お料理は採れた野菜などからメニューをみんなで作えます。うどんを作ったこともありました。そこらへん粉だらけだけどね(笑)。

「1回教えたら、あとは放っておくのが一番」と語る泉田さん



やってみてどうですか?

齊藤 お客さん扱いですと大変なので、なるべく自然体でつき合うようにしています。中には冷蔵庫開けたり、家を探検したりするのもあるけど、男孫が多くて慣れているので男子の受け入れを希望しています。女の子のように気を使わなくていい(笑)。

泉田 種まきを25センチ間隔にと教えてもらってセンターで植える子どももいる。でも放っておく。生まれて初めてやるので、うまくできるわけがない。体験することが大事。後で間引いたらいい。福島でも東京農大生の受け入れをやっていた。最初家族は反対だったが、それからは常に家に他人がいるようになった。孫たちは人見知りなんかしない。中学の孫は4月にサツカー留学するため、母親と共にドイツ語を習っている。

みなさんへのメッセージ

齊藤 一歩踏み出してみるのもいいんじゃないでしょうか。ダメならやめたらいいんだし(笑)。変わったことやってみるのも楽しいと思う。私も誘われてやり始めましたが、今では誘う立場です。農泊で子どもを預かるのは心配という人も一度受け入れてみて下さい。子ども達との関わりは午後から次の日の朝までと短い時間ですが、日常とは違う心地よい体験ができると思います。

泉田 農家に行くと、「私たちが終わり」という話ばかり。でも都会では農業やりたい若い女性が増えている。ふるさとどうすつか、全体の中で意識持って考えてやるのが大事。胎内市は全小学校が体験している。中条小学校では、子どもたちが米粉をどう発信するか討論している。そして、これらの活動が大臣表彰受ける。こんなところ他にないよな。今がチャ

ンスだと思う。大切な社会教育だから、みんなで作ってほしい。



それぞれに新しい生活がはじまったばかりなのかもしれませんが、すでに胎内市の大切なふるさと体験学習に携わっていらっしやいます。新しい仲間が増えることは、大変心強く思います。これからも同じ胎内市民として、子どもたちの教育活動にご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

もりたろう